



静岡県／平成22年度医療安全管理シンポジウム(東部地区)報告

参加者の高い評価と期待を受けて今後の活動継続へ

平成22年11月16日、「平成22年度東部地区医療安全シンポジウム」が、社団法人静岡県病院協会医療事故防止部会により、沼津市魚町のサンフロントビル9階ミーティングルームにおいて開催されました。参加者は、静岡県東部地区を中心に22施設の142名で、各病院の院長をはじめ幅広い医療従事者の参加となりました。

テーマは、県病院協会医療事故防止部会が静岡県東部、中部、西部各地区統一で「患者・市民の医療参加」を取り上げました。これは、昨年に行われました医療安全全国共同行動静岡フォーラムの中で取り上げた「医療安全は、医療現場だけでなく、患者市民にも参加をしていただき、患者・市民と医療者のパートナーシップを通じてケアの質・安全と相互信頼を向上させる」という医療安全全国共同行動が提唱する8つの行動目標の8番目の目標です。

シンポジウムは、静岡医療センター院長で県病院協会参与の小嶋俊一先生の司会により、初めに基調講演として、県立静岡がんセンターRM/QC室非常勤薬剤師で、医療安全全国共同行動「目標8: 患者・市民の医療参加」支援チームの一員として活躍されております飯島久子先生より「患者・市民の医療参加を進めるために—医療安全全国共同行動の取り組みを中心に—」という講演をいただきました。医療安全全国共同行動の取り組み参考例、参加病院による取り組みとして、名前確認、院内患者図書室、転倒転落の患者用啓発教材DVD等のお話がありました。

次に会員病院による事例取り組み発表に移り、初めに沼津市立病院看護部の杉山友輝氏により「ACL再建術オールインワンパスを利用した転倒転落防止への取り組み」、続いて富士宮市立病院看護部の寺尾智恵子氏による「まずあなたのお名前を名乗ってください」—その実態調査、最後に社団法人有隣厚生会富士小山病院診療放射線技師の大和充普氏より「当病院における患者確認の現状と課題」の発表がありました。各病院の患者確認について、独創的な発想で取り組んでいる事例や、患者、職員の意識付けへの苦勞が報告されまし

た。講演・発表者をパネリストとした全体討議では、会場の参加者を含め、時間ぎりぎりまで活発な質問や意見交換が行われ、盛況のうちに終了となりました。

終了後のアンケート結果によると、内容の理解については「よく理解できた・おおむね理解できた」が68%、今後業務に携わるうえで有意義



であったかどうかについては「非常に有意義である・有意義である」が68%、テーマ内容の適正性については「適切であったので継続して欲しい」が67%と、非常に良い評価と大いに期待される結果となりました。今後も、シンポジウムがより意義のあるものになるよう、ご支援をお願いします。

(報告者: 社団法人有隣厚生会 富士小山病院院長 細井靖夫)